

校内弁論大会 =思いを伝える= 意見を堂々と発表

～自分を振り返る貴重な時間～

校内弁論大会を7月12日(金)に実施しました。この弁論大会は、生徒会図書委員会の企画・運営で行われ、1学期末の恒例行事として定着しています。

生徒たちは、弁論で何を伝えようかと悩みながらも、全校生徒が弁論文を書き上げました。生徒たちにとって、人前で発表する弁論文の作成は大変な作業ですが、普段の自分を振り返ったり、将来の自分を考えたりするには、大変に有意義な時間だと思います。そして、自らの体験を通して感じたり考えたことを大勢の前で発表することは、大変に勇気のいることであり自信にもつながります。

当日の弁論大会には、各学級での発表会から選出された6名の弁士が登壇し、堂々と自分の意見を発表しました。また、意見を聞いている生徒たちは、弁士の体験から得た思いや考えに、真剣に耳を傾け今後の自分のあり方について考えていました。



堂々と発表する弁士の皆さん

生徒の感想より ～一部抜粋～

- ・自分の体験談をもとにして発表しておられ、すごく分かりやすかったです。僕は、自信をあまり持っていないので、何かで自信をつけたいです。
- ・「ありがとう」と言われると本当に嬉しくなったりするので、嬉しくなる言葉をかけていきたい。
- ・「あいさつ一つで人と分かちあえるし、あいさつをする方もされた方も気持ちが悪くならない」という所が心に残りました。
- ・神楽を通して、一生懸命に頑張れば必ず出来ると学んだことや、神楽への思いが伝わってきました。「継続は力なり」という言葉が印象的でした。
- ・悲しい体験をうまく文章で表していると思いました。最後にお爺さんが残してくれたものが、お金で買えないすごく大切なものだと感じました。
- ・自信を持って、勇気を出してチャレンジをしたいと思います。心に残っているのは、小さなことでもチャレンジになるということです。

体育祭に向けてスタート 絆が深まる体育祭に

吉中体育祭 =9月12日(日)=

体育祭に向けての全校集会を7月12日(月)の朝に行いました。当日は、生徒会長が「全員が力を合わせ体育祭を成功させましょう」と意気込みを伝え、体育祭に向けて本格的な準備が始まりました。

体育祭に向けての取組みは、生徒会執行委員5名、体育正副委員長2名、各色組長3名、1・2年学級代表4名で構成される体育祭実行委員会が中心となり進めています。集会では、最初に体育祭の「ねらい」や「概要」について執行委員が説明をしました。

平成22年度 体育祭の「ねらい」(生徒会)

1. 体育祭を通して、学年の枠を超えて関わり合い、絆を深め最高の思い出を作る。
2. 全校生徒59人が団結して、企画・準備・運営を創造的にやり遂げる。
3. 互いに刺激しあい、表現力を伸ばす場とする。

=「魅せろ!! 吉中の絆」轟け歓声 弾けろ青春=

続いて体育祭スローガンの発表がありました。執行委員会が持ち出したホワイトボードには、青字で大きく「魅せろ!! 吉中の絆」そして、赤字で「轟け歓声 弾けろ青春」と記してありました。

このスローガンは、全校生徒から募集したものを執行委員会が集約して決めました。執行委員の代表から生徒たちに「生徒数は少ないけど、みんなで協力し合えば絆も深まるし、達成感も倍あるとの思いから決めました」と説明がありました。そして「体育祭では一人ひとりが輝き、最高の思い出になるようにしましょう」と、生徒たちに呼びかけました。

その後、全校生徒59名の組分けを行いました。学年ごとの代表者9名が、抽選箱に入ったカラーボールを引きあい、全校生徒が赤・青・黄の3組に別れていきました。ボールを引く生徒も、それを見守る生徒も真剣そのものでした。今後は、色別集会で応援やデコ・衣装等の担当を決めたり、競技の選手を決める等、体育祭に向けて準備を進めていきます。



「黄色」で一す



体育祭に向けて

県吹奏楽コンクール 7/31(土)

聴く人に♪感動を♪

～自信と勇気で満足できる演奏に～

吹奏楽部は、7月31日(土)に開催される全日本吹奏楽コンクール島根県大会に出場します。

出雲市民会館で開催されるこのコンクールは、部員たちが目標にしてきた最高の舞台上、特に3年生にとっては思い入れの強い大会です。生徒たちは、コンクールに向けて、多くの方々の支援に対する感謝の気持ちを持ち、演奏することの楽しさや厳しさ、そして、喜びを感じながら日々練習に励んでいます。

当日は、中学校小編成の部(26校が参加)に出演し、福島弘和作曲『春に寄せて～風は光り、春はひらめく～』を演奏します。吉田中の演奏予定時刻は、午後3時45分ですので、お早めにお出かけください。

演奏曲「春に寄せて」は、1年生が楽器に慣れ始めた5月初旬から練習に取り組み、出雲地区吹奏楽祭で初めて演奏をしました。そして、先日開催された雲南バンドフェスティバルでも演奏し、本番に向けてさらに練習を積み重ねています。

いよいよコンクールの日まで後わずかです。これまでの経験や反省を生かし、『自分たちの思いを伝え、聴く人に感動を与える演奏』そして『自信に満ちた演奏』ができるよう、一丸となって練習に取り組んでください。＝自分を信じて仲間を信じて＝

県吹奏楽コンクールでは、春の色彩や表情を豊かに表現した、満足のいく演奏を期待しています。そして、演奏後に生徒たちの満面の笑顔と出会えるのを楽しみにしています。♪頑張ってください♪



一生懸命が自信に

楽器講習会等に参加して (生徒の感想)

・バンドクリニックが、6月20日にありました。僕は、打楽器の専門の先生から指導を受け、ティンパニーの叩き方や楽器の調整などを楽しく習いました。その後に全体合奏を見てもらい、さっそく指導をしてもらったことが活かされたので良かったです。本番が近いので、習ったことを忘れずに練習をしていきたいと思っています。

・私は雲南バンドフェスティバル(7/11)で学んだことがあります。それは、日頃の練習がとても大切だということです。日々の練習をきちんとしていないと本番で力が発揮できないと思います。これからは、基本をしっかりと身につけて本当の力をつけたいと思います。そして、コンクールの時にこれまでの成果が出せるよう頑張っていきます。

郷土を愛する心を育む ふるさと学習

～地域のひと・もの・ことに学ぶ～

本校では「ふるさとを愛し、心豊かでいきいきとたくましく生きる生徒の育成」を教育目標に、そして、目指す生徒像の一つに「地域から学び、地域とともに成長する生徒」を掲げています。

総合的な学習の時間を活用し「ふるさと学習」を実施し、4月末から11月までの毎週月曜日に2時間、郷土に関する学習に取り組んでいます。

この時間には、全校生徒が地域の方々を講師に「吉田の伝統芸能」「吉田の自然とくらし」「吉田の稲作」の3講座に分かれ学習し、『ふるさとへの誇り』や『ふるさとを愛する心』を育んでいます。



神楽の練習

成果を発表

太鼓の練習

「伝統芸能」では、深野神楽を10名の生徒が、小田安秋、和子さんに、火焰太鼓を11名の生徒が錦織満さんの熱心な指導のもと練習に励んでいます。

深野神楽では、今年は民谷の生徒(1名)も加わり、一緒に稽古をする中で民谷神楽との異なりに気づき新たな驚きがありました。

火焰太鼓は、地域からの強い要望と講師さんの熱意により、昨年復活することが出来ました。昨年の文化祭や地域行事での火焰太鼓メンバーの活躍からか、希望する生徒が多く、太鼓の数から生徒の数を限定するほどの人気でした。

「吉田のくらしと自然」グループ(17名)では、吉田の観光パンフレット作りに取り組み、テーマ別に少人数で堀江家住宅やサクラノボ畑等を訪問し、調べた成果をまとめ、6月末にグループ内で発表をしました。7月からは、「茶道(お点前)」と「間伐材を用いた作品制作」に別れて活動に取り組んでいます。この様子は、後日お知らせをします。

「吉田の稲作」グループ(21名)は、多数の皆さんの支援と協力のもと、4アールの水田を借用しコシヒカリと餅米を栽培しています。生徒たちは、田植えの後、稲の観察とともに除草作業(田車押し)等に汗を流しました。＝収穫の秋が楽しみです＝



6月 ショウブ

7月 キキョウ

今学期も4月5月・6月・7月に岡田律子さん田部五月さんにお花を生けていただきました。学校の雰囲気や和み、とても感謝しています。